

# AGU NEWS

青山学院大学

Vol.  
14

AGUニュース第14号  
[2002年10~11月号]  
青山学院大学・広報入試センター広報課  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL.03-3409-8111 (代表)  
URL. <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



クリスマス・ツリー点灯祭(青山キャンパス)

特集



AOYAMA  
GAKUIN  
UNIVERSITY

## 4期目を迎える深町院長からのメッセージ 「e-ラーニング」をアジアの大学に配信

### AGU TOPIC

新しい共通教育システム「青山スタンダード」始まる  
青山学院大学法科大学院設置計画について  
文部科学省選定「21世紀COEプログラム」の研究教育拠点校に決定

### TOPICS

SAP R/3のホスティングサービスをスタート  
相模原キャンパス事務組織の骨子が決定

### 報告・お知らせ

文学部への転学部制度導入  
2002年度給付奨学金・学業奨励賞  
大学後援会報告

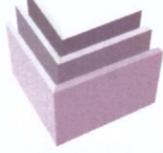
### 誌上公開講座

vol.14 犯罪・非行の原因と、犯罪者・  
非行少年の処遇について考える

### INFORMATION

相模原新キャンパス説明会  
シリーズ大学探訪(メモリアル)

## 特集



# “変革”の大きな流れの中で 4期目を迎えて。

院長 深町 正信



去る7月31日の任期満了とともに再任が決定した深町院長に、大学を中心とした

私が初めて院長に就任したのは1990年(平成2年)でした。青山学院“中興の祖”ともいえる大木金次郎前院長の後を受けてのことでした。以来、3期12年、予想外の長期間にわたりこの大任に当たってまいりましたが、実は4期目となる今回は、当初、辞退するつもりでした。組織人として固定化するとその中での緊張関係が薄れ、さまざまな弊害が生まれてくると考えたからです。また、今日は変化の激しい時代ですから、私よりもっと若い世代の人が立つべきだとも考えました。しかし、現在、第2次青山学院将来構想委員会が、精力的に学院改革のマスタープラン作成に取り組んでおり、今年度中にはプランをまとめあげようという最中にあります。こうした変革への取り組みの途上でもあり、理事会の決議と羽坂勇司理事長より頑張ってほしいとの激励の言葉をいただき、4期目を務めることを決心致しました。お引き受けした以上は、諸問題に全力で取り組み、できるだけ良い形で次の代にバトンタッチできるよう務めていきたいと考えています。

さて、大学におけるもっとも大きな改革が、2003年4月の相模原キャンパス開学です。これは青山学院の歴史の中で屈指の大事業であり、学院全体でバックアップしていこうという機運も高まっています。特に青山学院大学を日本一の大学にしたいという半田正夫学長を中心に、大学教職員の方々は文字通り一丸となって新キャンパス開学のために取り組んでこられました。その熱意に、あらためて敬意と感謝の意を表したいと思います。新キャンパスの建設工事は、地元の方々のご協力もあり、万事、順調に進んでいます。今後は文理融合型の新学部の設立も検討されています。まさに“神の恵み、導き”の中で、新しい青山学院の道が開かれていると感じます。

新キャンパスの建設と並行して、西澤副学長を中心とした「共通教育のあり方検討委員会」では、AGUニュース紙上でも紹介されていたとおり“青山スタンダード”と称されている全学共通科目の改訂作業が着々と進められております。この“青山スタンダード”は、キリスト教信仰に基づいた全人的な人間教育、そして時代に応じた専門教育を展開してきた青山学院の128年の歴史を踏まえ、21世紀の新しい“知”を提案するものです。青山学院大学の卒業生は、他大学にない個性を持ち、社

会の中で「何が良いものか・何が悪いものか」が判断できる、いわば“魂のエリート”ともいえる聖く高い倫理観を持った人間となってほしい。在学中にキリスト教的な考え方に触れることによって、国内だけでなく、グローバルに通用する若者が多く生まれることを期待しています。

2004年度に開設を予定している法科大学院(ロースクール)、さらに夜間部(第二部)の改革についても、キリスト教の価値観を教育の柱に据えている青山学院の個性を十分に発揮したものになっていくでしょう。

こうした学院改革に携わりながら、私は人間、そして組織にとって、「夢」を持つことの大切さを、あらためて感じます。聖書に「幻(VISION)なき民は滅びる」という言葉があります。一人ひとりが大学生活への夢を持ち、それを実現するためにみんなで力を合わせて取り組んでいくことが、新しい時代の青山学院を生み出していく原動力になります。そして、青山学院の教育の原点となるのが礼拝でありましょう。近年、大学・短大とも学生の礼拝参加者が増えている傾向が見られます。この事実は今の学生たちがそれぞれの生きる意味を真剣に模索していることの証しであると思います。学生だけでなく、ぜひ教職員の方々も積極的に礼拝に参加されて、聖書の言葉に触れ、真理に出会い、各教育現場で生かしていただければと強く願っています。

12年前の初就任時にも申しましたが、私は院長の職務“パートナーシップ”を大切に遂行していきたいと思っております。すなわち大学執行部、各学部長、そして事務セクションのリーダーのみなさんにそれぞれの責任を果たす仕事をさせていただいて、それをモデレート(調整)し、充実に努めること……これからの4年もそういう考え方に立ち、学院全体のパートナーシップを形成していくために努力していくつもりです。また、学院改革への姿勢として、神学者ラインホルド・ニーバーの次の言葉を、私は日々の祈りとしています。

「主よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気を我らに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵を与えたまえ」

今日、多くの人々が愛するこの言葉を、あらためて青山学院に関わるすべての人々とともに大切にしたいと思います。

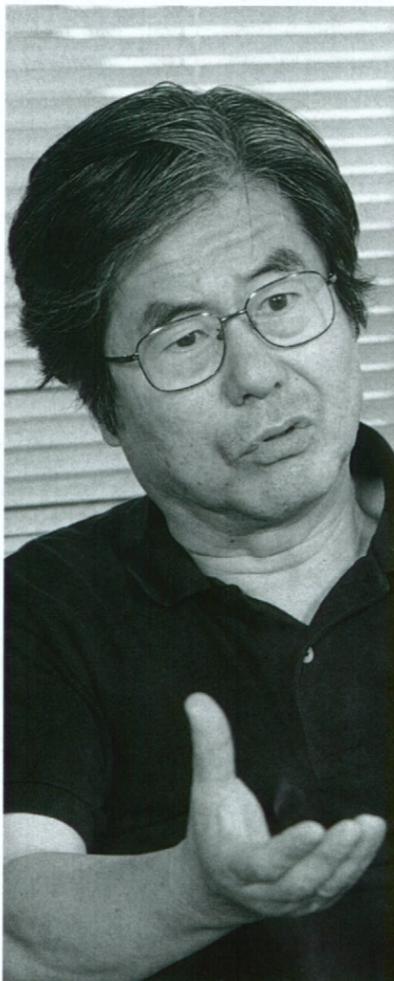
青山学院の現在、そして将来について語っていただきました。



# 「e-ラーニング」をアジア5カ国の大学に配信する共同実証実験に青山学院大学が参加

コンピュータとネットワークを活用した新しい学習形態として注目されている「e-ラーニング」。2002年、青山学院大学などの日本の大学が、アジア5カ国の大学に「e-ラーニング」を提供する実証実験が、産官学協力のもとにスタートしました。

2002年7月24日(水)、東京都内のホテルにアジア12カ国の大学、IT関連企業の関係者が一堂に会し「アジアe-ラーニングネットワーク(AEN)コンファレンス2002」が開催されました。この会議は日本の経済産業省の呼びかけで今年初めて開催されたもので、今後、産官学連携してアジアのe-ラーニング市場の発展に向けた努力を行うという内容を含む「AEN東京憲章」が採択されました。その具体化策の一環として、まず10月から日本の各大学が、アジアの各大学に対して「e-ラーニング教材(コンテンツ)の無償提供」と「IT人材育成協力」を行う実証実験プロジェクトがスタート。青山学院大学は、フィリピンのデラサール大学におけるビジネススクールでの非同期協調学習の国際共同授業を行います。この実証実験実施に先立ち、今年5月、本学総合研究所内に「A<sup>2</sup>ENプロジェクト」が設立され、デラサール大学との教材コンテンツや体制づくりについて意見交換が行われてきました。今回は、「A<sup>2</sup>ENプロジェクト」のプロジェクトリーダーを務める佐伯胖総合研究所長と、サブリーダーの玉木欽也経営学部教授に、青山学院大学が世界に発信するe-ラーニングについてうかがってみました。



総合研究所長 文学部教育学科教授 佐伯 胖

——まず青山学院大学におけるe-ラーニングの取り組みについて教えてください。

佐伯 本学では、これまでに玉木教授らの研究グループが総合研究所の「青山メディアラボII(AMLII)プロジェクト」の活動によって、早い時期からさまざまなe-ラーニングの可能性を追求し、日本の大学でもトップクラスの実績を作ってきました。

——そうした実績からアジアの大学への教材提供を行うようになったのですね。

佐伯 今回の実証実験プロジェクトに参加するためには、単に実績だけではなく、世界に通用する教育コンテンツと学習管理システムを持っていることが求められました。本学は特にビジネス系、エンジニアリング系、そしてコミュニケーション系の協調学習の分野で大きなアドバンテージがあります。デラサール大学への教材提供に関しては、「サイバービジネス演習」「サイバーマニュファクチャリング演習」などの「協調型演習」を、フィリピンの大学院生に受講してもらいます。もちろん教材はすべて英訳されます。また、デラサール大学もビジネス系コンテンツが充実しているそうなので、将来的に

は向こうのコンテンツをこちらに取り入れることも計画しています。

——青山学院大学がデラサール大学に提供する「協調型演習」とはどのようなものですか？

玉木 実際の企業活動では、商品企画・開発から購買、製造、流通、販売まで、さまざまなスタッフの連携によってビジネスが進行しています。こうしたビジネスプロセスを擬似体験しながら、講義で得た知識を実践的に活用する方法を修得できるよう、たとえば学生が販売部門、製造部門といったグループ内で各々の役割に分かれ、e-ラーニングのシステムを使ってバーチャルな企業活動を行いながら学ぶ授業です。「サイバービジネス演習」では、世界中の多くの有名企業で採用されているドイツ・SAP社のERPソフト、「SAP R/3」を講義・演習用のプラットフォームとして使っています。また、「サイバーマニュファクチャリング演習」では3D-CGによるバーチャルファクトリー(工場)によって学べるようになっています。

——青山学院大学は世界に誇るべきe-ラーニング教材を持っているわけですね。

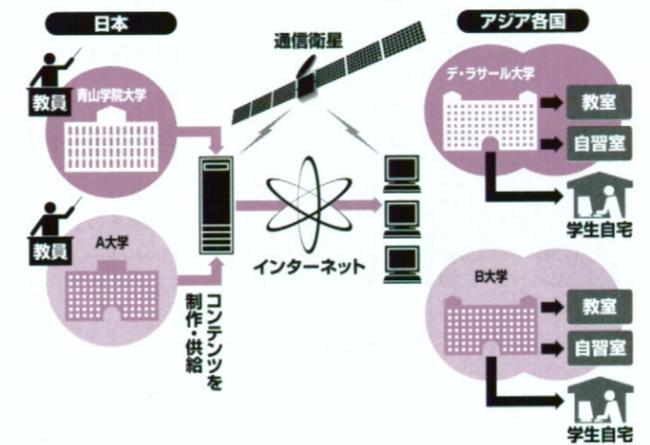
佐伯 今回、わが国がアジア各国と連携した実証実験をスタートさせた大きな理由のひとつに、e-ラーニングの先進国であるアメリカに対抗して、アジア独自のイニシアティブを日本を中心に各国が連携して形成しているという強い思いがあります。そのため、本学が提供するe-ラーニング教材や学習管理システムを、国際標準規格である「SCORM(スコーム)」に準拠させます。この標準規格を採用していないと、いくら優れたコンテンツを作ったとしても、今後、他の大学や企業のシステムとの互換性を確保できません。

玉木 私たちが進めるe-ラーニングは、単なる教育のIT化ではありません。教育方法そのもののパラダイム(典型、模範)を変える試みなのです。学生の学び方も、教員の授業のやり方も、これまでとは変えていく必要があります。そこで大きな力を発揮するのが、私たちがAMLプロジェクトで構築してきた本学独自の「学習管理システム(それをサイバーキャンパスシステムと呼んでいます)」です。このシステムでは教員と学生が、コンピュータネットワークを通じたインタラクティブなコミュニケーションを図りながら、学生の学習進度、理解度をきめ細かくフォローした教育指導を行うことができます。この学



経営学部教授 玉木 欽也

## 日本とアジアの大学による実証実験の仕組み



習管理システムもデラサール大学に提供しますが、本学の教員が実際の授業で使いながらバージョンアップしてきましたので、かなり使い勝手の良いものになっていると自負しています。

——青山学院大学のe-ラーニングは、今後も進化していくのですか？

玉木 もちろんです。今秋以降には携帯端末iモード等を利用したモバイルラーニングをスタートさせる予定ですし、さらに単位認定ができるセルラーラーニングの開発など、積極的にe-ラーニングのさまざまな学習形態を研究・開発し、実用化していきたいと思っています。

## 共同実験に参加する大学・企業

日本側(協力企業)	アジア側
青山学院大学(日本ユニシス)	デラサール大学(フィリピン)
京都大学/早稲田大学(NTT-X)	マレーシアマルチメディア大学(マレーシア)
慶應義塾大学(日立製作所)	ベトナム国立大学、ハノイ工科大学(ベトナム)
東京大学/NIME(日本IBM)	ナンヤン工科大学(シンガポール)
東京工業大学(日立電子サービス)	アジア工科大学(タイ)



共通教育のあり方検討委員会委員長  
副学長(学務・学生担当) 西澤宗英

## 青山スタンダード科目の 基本的理念と構成

「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかにかかわらず、一定の水準の技術・能力と一定の範囲の知識・教養を持っていると社会的に評価される学生を輩出すること……そのコンセプトを具体化した「青山スタンダード科目」の枠組みを、具体化させることができました。この「青山スタンダード科目」は、以下に紹介する「フレッシュャーズ・セミナー」「コア科目」「テーマ別科目」の3つに大別されます。

### ●フレッシュャーズセミナー

入学したばかりのフレッシュャーズ(1年生)を対象にしたゼミ形式の授業です。1人の担当教員のもと、さまざまな学部の学生で構成された少人数クラス(約20名)で行われ、専門以外の学問に対する広い視野を形成するほか、自分の意見を的確に相手に伝えるための自己表現能力の育成も図ります。また、セミナーでは教員やさまざまなバックグラウンドを持つ学生同士のコミュニケーションを通して、大学で学ぶ面白さを存分に感じてほしいと思っています。

### ●コア科目

学部・学科を問わず青山学院大学で学ぶすべての学生の基本的な教養や、外国語・情報などの基本スキルのコア(核)を形成するための科目で、「教養コア」「技能コア」に分かれています。

「教養コア」は、青山学院大学のバックボーンへの理解を深める「キリスト教理解関連科目」のほか、「人間理解関連科目」「社会理解関連科目」「自然理解関連科目」、そして「歴史理解関連科目」の5領域で構成しました。いずれも複数の教員がリレー方式でひとつの講義を分担する「総合科目」を設置します。たとえば、「環境」というテーマに対し、経済学部、法学部など異なる学部の教員がチームを組み、学問分野の枠組みを越えた広い視点からの授業を展開します。

2003年4月、相模原キャンパス開学と同時に、新しい共通教育システム「青山スタンダード」がスタート！今回は、その検討作業に主導的な役割を果たしてきた西澤宗英副学長と堀場勇夫経済学部教授にお話をうかがい、他大学にない画期的な教育プログラム「青山スタンダード」の考え方と特色などについてまとめてみました。

これらの科目は、従来の大学の一般教養科目とはまったくコンセプトが異なり、学問分野の知識を増やすことを学習目標にしていません。授業のテーマに対する幅広い視点からの理解を通して、社会とそこに生きる人間、そして自分を探求・発見することを主眼として行われます。「人間」「社会」「自然」の各領域に関しては、学問の横の広がりを意識し、「歴史」理解に関連する科目で歴史観という縦(時間軸)の広がりを加え、学生がダイナミックかつ多角的な教養を修得することを目指します。

「技能コア」は、外国語能力等の「言葉の技能」、情報処理等の「情報の技能」、スポーツ等の「身体の技能」で構成され、それぞれのスキル向上を図る科目です。

外国語教育に関してはグローバル言語である英語に関して全学的な教育プログラムを編成し、フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・ロシア語・韓国語についても、多種類の教育プログラムが用意されています。

外国語能力とともに、情報収集・処理能力も、大学での学習、さらに社会で活躍するために欠かせません。ここでは、学生の習熟度に応じてステップアップ形式(教習所方式)で学べるよう配慮しています。短期集中の講習会形式の授業も含め、必要最低限の情報リテラシーから、自己表現のツールとしてのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高められる科目まで幅広く設置しています。

### ●テーマ別科目

教養コア各領域(キリスト教・人間・社会・自然・歴史)、技能コア各領域をすべて含んでおり、これらのコア科目で学んだ教養・技能の発展・グレードアップを図る科目です。今日的なトピックを積極的に取り入れていることも特色といえるでしょう。また、言語学習と同時に、それぞれの国、地域の社会や文化についての理解も深め、真の異文化コミュニケーション能力の養成を図っています。同時に、各学部・学科の専門領域の導入教育に有機的につなげることで、所属学部の専門学習と全学共通の「青山スタンダード」の間に“段差”や“壁”を作らずに学べる教育システムを作り上げました。

## 青山スタンダードから始まる 21世紀の大学教育

「青山スタンダード」は、単なるカリキュラム改訂ではありません。科目を評価するシステムや、運営組織の設置、さらにメディアセンターなど学内支援体制を含め、全学的な抜本的教育改革となっていくものです。

実施にあたっては、昨年より約100名の教員と約30名の事務職員が、検討作業を続けてきました。特に30～40代の若い世代の教職員の方々が、実に意欲的に議論に参加していただいたことで、検討作業が非常に実りのあるものになったと思います。

また異なる学問分野の先生がチームを組んで行う総合科目に関しては、多くの教員から「あの先生と一緒に授業をやってみたい」との申し出をいただき、予想以上に充実した講座ラインナップになりそうです。こうした成立に至るまでの過程において、私たちは青山学院大学の自由闊達なスクールカラーを改めて実感し、



共通教育のあり方検討委員会副委員長  
経済学部教授 堀場勇夫

「この大学だからこそ、こうした画期的な教育プログラムが実現できる」という確信を深めることができました。

今後も、2003年度入学者の意見に十分耳を傾けながら、「青山スタンダード」各科目の見直しや新しい科目の開発を継続的に行っていきたいと考えています。



法学部長・法学研究科長  
山崎敏彦

現在、法学部を有する各大学で  
法科大学院設立に向けた動きが活発化しており、  
青山学院大学でも法学部を中心として  
2004年度開設に向けて動き出しています。  
その設置計画のコンセプトとカリキュラム等  
教育内容の骨子について、  
山崎敏彦教授(法学部長・法学研究科長)に  
うかがってみました。

— 本学ではどのような考えのもとで、法科大学院設立を目指しているのですか。

山崎 法科大学院、いわゆるロースクールは、法学教育、司法試験、司法修習を有機的に連携させた「プロセス」としての新しい法曹養成制度の中核となるものです。これは従来の司法試験という「点」のみによる選抜ではなく、法曹に関わる「人」を育成しようという理念に基づいています。このようなわが国の司法制度と法曹養成改革の中で、「青山学院大学としてどのようにコミットしていくか」ということが、法科大学院設立に向けた重要なポイントです。私たちは、キリスト教理念に基づく教育という建学理念と、創立時からの特色である国際性を生かし、グローバル化が進む社会の中で「良い法律専門家」として活躍できるような人材を育てるロースクールを考えています。

— 開設に向けた進捗状況は?

山崎 現在のところ、入学定員は60名規模でのスタートを予定しており、すでに実務経験者を含めた教員スタッフの目途もついています。また、2002年8月5日(火)に中央教育審議会が定められた法科大学院の設置基準が発表されましたが、カリキュラム内容に関しても、概ね固まりつつあります。

— カリキュラムの特色はどのようなものになりますか。

山崎 他大学との競合の中で、青山学院大学としての独自色を出していくことは、法科大学院開設に当たって必要不可欠だと考えます。その際、カリキュラムの特色として“あれもこれも”盛り込む百貨店スタイルではなく、

いわば専門店のようなロースクールにしたいと思っています。具体的にはグローバルに活躍できるlawyerの育成を目指し、国際的要素に重きを置いた教育プログラムを用意します。カリキュラムにはアメリカやEU諸国の法律はもちろん、中国、韓国といったアジア法、あるいはオセアニア法など、外国法の授業を充実させる予定で、この分野では現在法学部に在籍する外国人教員も大きな役割を果たすことになるでしょう。そしてアメリカ、ヨーロッパのほか、ハワイ、オーストラリア、アジアのロースクールとの連携を強化したグローバルな教育環境も大きな目玉になるでしょう。また、“英語の青山”という社会的定評を踏まえ、英語による交渉能力を高めるディベートプログラムを開講したいとも考えています。さらに入学時にも受験生のTOEICやTOEFLのスコアを考慮する英語力を重視した入試を実施することも検討していくつもりです。

— 本学の教育理念である「キリスト教理念に基づいた教育」も、法科大学院の教育には反映されるのですか。

山崎 もちろん。社会的弱者へ温かい眼差しを注ぐことなど、法律専門家として必要なヒューマニティーを育むために重要な要素であると考えています。カリキュラムでは、特に消費者取引、社会保障、また公益法人・NPOなどに関わる分野で、そうした教育姿勢を打ち出せるのではないかと考えています。また、社会の現実を知り、社会貢献の意識を育てるボランティア研修などの教育メニューも検討中です。

— 従来の法学部、法学研究科との関係は?

山崎 法科大学院は法律専門家を育成する独立した組織ですが、法学部や法学研究科と人的にも物的にも密接な相互協力関係を図っていきます。法学部では法科大学院開設と並行させた教育改革に積極的に動いており、2003年度入学者より、現行の3コース制度を「総合法律」「企業法務」「公共政策」「法曹」「司法」「国際涉外法」の6コースに拡充し、新しいカリキュラムのもとで学習を進めることになりました。このうち「法曹コース」は、法科大学院進学者・司法試験受験者を対象としています。一方、法学研究科の改革も必要で、企業や行政の現場での法務を中心とし、経営学研究科や経済学研究科との連携を視野に入れた教育プログラムを推進していくことなどが話題にのぼっています。

— 本学では、2001年度に国内の私立大学で初めての専門大学院として国際マネジメント研究科を開設しており、大きな社会的評価を築いていますね。

山崎 ビジネススクールである国際マネジメント研究科とロースクールは、さまざまな面で密接に連携し、相互の教育クオリティの向上を図っていくことになるでしょう。そして、法科大学院が加わることによって、本学はいつでもグローバルな教育を展開しているロースクールとビジネススクールを有することになるわけで、これは本学のみならずわが国の高等教育の今後の方向性を指し示す出来事になると思います。その意味で(法科大学院開設は)法学教育だけの問題ではなく、全学的な大学改革の一環であると考えています。

## 相模原新キャンパス事務組織の骨子が固まる



大学事務局長  
宗像 知機

「21世紀における魅力ある新キャンパスの実現」を目指し、新校地基本計画委員会のワーキンググループで検討してきた新キャンパスの事務組織の骨子が、下表の通り決定しました。

そこで、新事務組織決定までの検討作業に深く関わった宗像知機大学事務局長に、新しい事務組織の基本的な考え方や特色についてうかがってみました。

——相模原キャンパスに新しく設けられる事務組織は、どのような考え方で検討してきたのですか。

宗像 「新しいぶどう酒は新しい革袋に入れねばならない」(ルカによる福音書第5章38節)。この聖書の言葉は、青山学院2002年度の標語です。相模原新キャンパスにおける事務組織・機構づくりは、まさにこの新しい革袋を創造することであり、私たちは既成概念にとらわれず、まったく新しい発想で今回の組織改革に挑みました。

半田学長が所信表明で掲げられた「社会に開かれた大学」「明るい大学」「学生を大切にす大学」という大学運営の基本方針が、

やはり事務組織づくりにおいてもベースになります。そして、「高度情報型キャンパス」「国際交流型キャンパス」「地域共生型キャンパス」「環境共生型キャンパス」「人にやさしいキャンパス」という相模原キャンパスの5つのコンセプト、さらに相模原市が掲げる「新世紀さがみはらプラン」の考え方も取り入れています。

その上で「大学の基本的役割である教育・研究・社会貢献を支援できる事務組織であること」を第一の目標として、相模原キャンパスの機能・個性を十分生かした独自の事務組織を計画しました。もちろん、今後の青山キャンパスの組織改革も視野に入れ、両キャンパスの緊密な連携も十分踏まえています。

——新しい事務組織の大きな特色は、どのようなところにあるのですか。

宗像 従来のような縦割り機構ではなく、きわめてフラットな組織であることです。これは社会環境の大きな変化と、多様化する要望に対し、柔軟かつ的確に対応できる組織づくりを重視した結果です。

たとえば、〈学生支援ユニット〉は、学務、学生生活、進路、国際交流、健康管理グループで構成されていますが、グループの規模や場合によってはユニットの構成も柔軟に変えられるように考えています。同様に、また、その時々に応じてスタッフの組み替えなどを行い、ニーズに合った学生本位の柔軟な事務サービスを可能にします。

新キャンパスでは、この〈学生支援ユニット〉と〈教育・学習支援ユニット〉の機能を、メディアセンターの学生センターに集結させています。ここには総合案内を設け、スタートしたばかりの新キャンパスでの学習や学生生活について、学生が気軽に相談などに訪れることができる環境づくりにも配慮しています。

さらに、教室棟の学生ラウンジには、「サテライトオフィス」を設置し、授業支援グループをはじめ学生センターの出張所機能を持ちあわせ、教員の授業運営や学生の身近な問題をサポート。学生や教員のニーズにきめ細かく対応していきます。

また、情報インフラでも、メディアセンターとして情報科学研究センター、図書館、外国語ラボラトリーなどが光ファイバーで結ばれた統合システムとなり、学生や教員にとって快適な情報環境が誕生します。

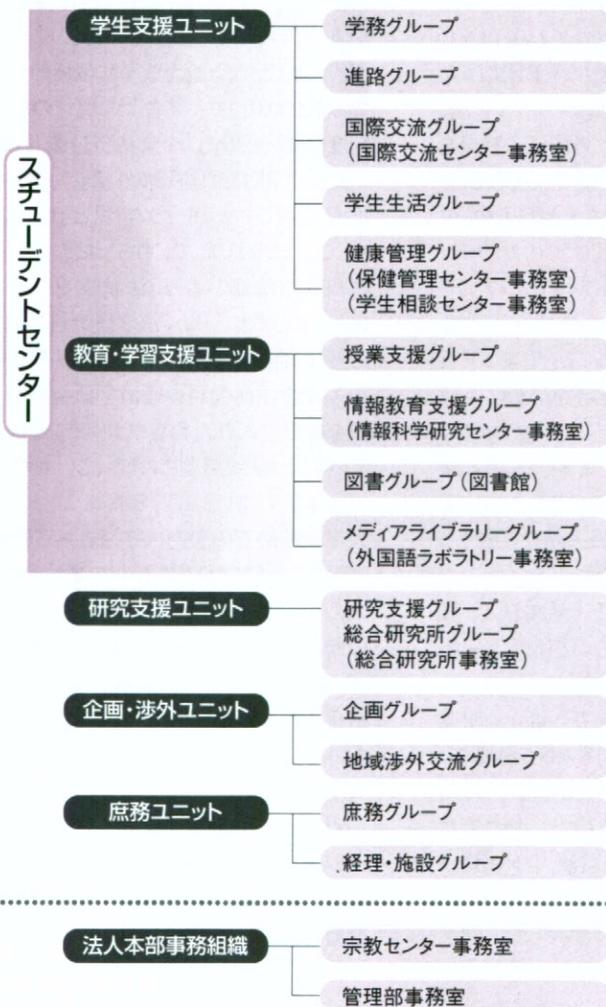
——その他の〈ユニット〉に関しても、何か特筆すべき点がありますか。

宗像 〈研究支援ユニット〉は、その名の通り教員の研究活動をサポートする部門ですが、青山キャンパスで総合研究所が果たしている役割をも担うグループを設置します。

また〈企画・渉外ユニット〉には、地域との共生を踏まえた地域渉外交渉グループを設けることにしています。ここでは地域の声を聞く窓口であると共に、本学が地域に提供するさまざまな企画などの立案・運営を積極的に行います。

——では、最後に相模原キャンパス開学に向けての意気込みを聞かせてください。

宗像 新しい事務組織の機能をフルに発揮していくためには、私たち事務職員の役割の向上、教育研究を含めたトータルな学校経営を支援するスタッフとしてプロフェッショナルなアドミニストレーターとしての意識を持つことが何よりも大切だと考えています。学生や教員の方々と協力しながら、素晴らしいキャンパス環境を創出していきたくと思っています。



文部科学省選定  
[21世紀COEプログラム]

# 青山学院大学は 世界最高水準の研究を 展開していきます。



私立大学としての“自由”をフルに発揮して  
個性あふれる最先端の研究活動を進めています。

国内の大学が世界最高水準の研究教育拠点づくりを競い合う

「21世紀COE (Center Of Excellence) プログラム」。

〈化学・材料科学〉分野では国立大学のほか、

私立大学としては3校 (青山学院大学、慶應義塾大学、早稲田大学) だけが  
文部科学省より選出されました。

本学では、理工学部秋光純教授が

拠点リーダーをつとめるプログラム

「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」が

研究教育拠点として選定されました。

## 私学としての快学に大きな誇りを感じています。

この度、文部科学省が大学の研究教育拠点を選抜して重点的に支援を行う「21世紀COEプログラム」(旧称トップ30)、  
化学・材料科学分野で本学「理工学部附置先端技術研究開発センター・理工学研究科」等で行われている研究プロジェクトが、選定されました。  
この研究プロジェクトでは、2001年、新しい高温超伝導体を発見し全世界の研究者を驚かせた秋光純教授をはじめとする教員によって、  
世界をリードする数々の創造的な研究が展開されています。

今回、選定された研究教育拠点の多くは旧帝大をはじめとする国立大学が占めています。

こうした最先端研究の分野において、私立大学は研究環境面でさまざまなハンディを抱えていると言われていました。

しかし、そうしたハンディを嘆いているだけでは進歩はありません。

私立大学には、各大学の個性を発揮した自由な研究活動が行えるという点で、大きなアドバンテージがあります。

今回文部科学省が推進する「21世紀COEプログラム」研究教育拠点校に選定されたことは、

本学の誇りとなるだけでなく、私立大学全体として大きな励みとなったはずで、

さて、2003年度の相模原キャンパス開学を機に、

本学はソフト&ハードの両面で研究教育体制を「高度情報化」「国際化」をキーワードとしてさらに充実させ、

世界的研究拠点の重点的整備を図っていきます。

今回の快学に決して驕ることなく、「私学でもやろうと思えばできる」ということを各学問領域でこれからも示していくつもりです。

そして、そうした最先端の研究教育の成果を積極的に社会や企業に還元していくことで、

大学としての社会的責務を果たしていきたいと考えております。

青山学院大学 学長 半田 正夫



理工学部長  
理工学研究科長  
**魚住 清彦**

### 人類最大の課題であるエネルギー・環境問題を解決するための世界的研究教育拠点の整備に力を注いでいます。

現代の社会生活と経済活動は、大量のエネルギー消費に支えられています。しかし、これが原因で地球環境の悪化や化石資源の枯渇などを招き、それらは人類が直面する最重要課題となっています。そしてこうした深刻な課題を解決することが、私たち科学者の使命といえるでしょう。

青山学院大学理工学部では、文部省（現文部科学省）私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業により、1997年度「理工学部附属先端技術研究開発センター（CAT）」を発足させ、「エネルギー高効率化のための機能性材料の開発および評価」をテーマとする研究プロジェクトを、各分野の最先端をいく研究者を集結してスタートさせました。

このプロジェクトでは、これまでに「次世代の超伝導材料として期待されている金属系高温超伝導体MgB<sub>2</sub>（ニホウ化マグネシウム）の発見」「世界最高のエネルギー変換効率を実現したCIGS系薄膜太陽電池の開発」「世界最高品質のエピタキシャルダイヤモンド薄膜

作製法の確立」など、世界をリードする数々の研究成果をあげてきました。今回、文部科学省から「21世紀COEプログラム」研究教育拠点に選定され、また、相模原キャンパス移転に伴う教育研究環境の整備によって、今後、さらに多くの社会に有用な研究成果を得られるものと確信しています。そして、こうした世界最高水準の研究に多数の学生たちが参画することによって、教育面での活性化も図っていくつもりです。理工学部を志望する受験生は、どうか大きな夢を抱いて本学に入学していただきたいと思ひます。



記者会見において研究計画について説明する秋光純理工学部物理学教授

### 2002年度CAT研究プロジェクト一覧

#### エネルギー高効率化のための新機能性材料の開発および評価のプロジェクト

電力貯蔵・移送材料としての超伝導新素材の開発および評価

秋光 純（理工学部・教授）  
永田勇二郎（理工学部・教授）  
古川 信夫（理工学部・助教授）  
戸塚 圭介（理工学部・助手）  
銭谷 勇磁（理工学部・助手）  
谷口 貴士（理工学部・助手）

新しい光電材料の創製と高効率薄膜太陽電池に関する研究

中田 時夫（理工学部・助教授）  
重里 有三（理工学部・教授）  
稲吉 倫子（理工学部・講師）

高効率電子素子用基盤および高効率機械部材に用いる高品質・大面積ダイヤモンドの創成と評価

澤邊 厚仁（理工学部・教授）  
竹本 幹男（理工学部・教授）  
小川 武史（理工学部・教授）  
山田 貴壽（理工学部・助手）



#### 外部資金で運営する研究プロジェクト

エネルギー高効率化のための新機能システムの構築

林 光一（理工学部・教授）  
岡田 昌志（理工学部・教授）  
三橋 功（理工学部・教授）  
隆 雅久（理工学部・教授）  
中川 慎二（理工学部・助手）  
村澤 剛（理工学部・助手）  
佐藤 博之（理工学部・助手）

次世代DNAマイクロレイシステムの開発およびこれを利用した神経回路形成機構の研究

田代 朋子（理工学部・教授）  
藤旗 千恵（理工学部・教授）  
野呂 美幸（理工学部・助手）  
内田 敦子（日本学術振興会・特別研究員）

高分子材料の衝撃破壊特性評価

竹本 幹男（理工学部・教授）  
小川 武史（理工学部・教授）  
松浦 健児（理工学部・講師）

電磁波環境改善のための材料探索とその応用

橋本 修（理工学部・教授）  
井出 英人（理工学部・教授）  
和田 光司（理工学部・助手）  
西澤振一郎（日本学術振興会・特別研究員）  
花澤 理宏（日本学術振興会・特別研究員）  
松本 好太（日本学術振興会・特別研究員）

## C L O S E - U P



「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」に関わる多数の研究者のうち、3名の研究業績とプロフィールを紹介します。

#### 新超伝導体の創生とMgB<sub>2</sub>（ニホウ化マグネシウム）の実用化



**秋光 純**  
Jun Akimitsu  
理工学部  
物理学教授

専門分野は、固体物理（超伝導・磁性）。2001年2月に、秋光教授らが発見した高温超伝導体「MgB<sub>2</sub>（ニホウ化マグネシウム）」は世界中に大きなセンセーションを巻き起こしました。また、2001年夏には新しい強磁性体「CaB<sub>2</sub>C<sub>2</sub>（カルシウム・ボロカーバイド）」をも発見し、これらの研究業績によって、紫綬褒章、朝日賞を受賞。超伝導とは、ある温度（臨界温度）以下で電気抵抗が完全になくなる現象のこと。たとえば、超伝導体を送電線などに利用すれば貴重な電気資源をムダなく送ることができます。日本で現在、実用化が図られているリニアモーターカーも超伝導を使って高速運行を実験中です。さらに現在は実現されていない電気の貯蔵やコンピュータ素子への利用も期待されています。高温超伝導体「MgB<sub>2</sub>」は、今後の実用化に大きな期待がもたれており、本プロジェクトでの研究成果に世界が注目しています。



#### 新しい光電材料の創製と、高効率薄膜太陽電池に関する研究



**中田 時夫**  
Tokio Nakada  
理工学部  
電気電子工学科助教授

専門分野は半導体工学。現在、エネルギーや地球環境の観点から、太陽光発電の本格的な導入が期待されています。しかし、その本格的普及のためにはコストの低減が急務となっています。中田助教授の研究で取り上げるCu（In,Ga）Se<sub>2</sub>（CIGS）系薄膜太陽電池は次世代の低コスト太陽電池として位置付けられ、現在、その実用化のためにさらなる高効率化を追究。高品質CIGS薄膜の形成と界面制御を中心とした要素技術開発を行い、安価なガラス基板上で多結晶シリコン並みの光電変換効率を得ることを目的とした研究が進められ、その成果は世界最高水準にあります。なお、これまでの研究業績に対して、小平賞（1999）、電気学術振興賞（進歩賞）（1999）が贈られています。



#### 高品質エピタキシャルダイヤモンドウェハの作製と評価



**澤邊 厚仁**  
Atsuhito Sawabe  
理工学部  
電気電子工学科教授

専門分野は、結晶工学（薄膜・磁気デバイス）。澤邊教授は、株式会社東芝の研究者として長年活躍してきた経歴を持ち、東芝在籍中に「HDD（ハードディスクドライブ）の大容量化を実現する巨大磁気抵抗効果型磁気ヘッド」を開発。2001年度、科学技術の向上や産業振興を目指した全国発明表彰（主催・社団法人発明協会、後援・朝日新聞社、文部科学省、経済産業省、特許庁など）のうち、特に功績が大きい発明者に贈られる恩賜発明賞を他の5名の研究者と共に受賞しています。本プロジェクトでは21世紀に



おけるエネルギーおよび情報通信システムのキーコンポーネントを構成する材料として注目を集めている高品質・大面積エピタキシャルダイヤモンドの作製と電子素子への応用に関する研究と取り組み、その成果は世界から注目されています。

# 〔21世紀COEプログラム〕

個性輝く大学づくり、そしてそれによるわが国の国際競争力の向上を目指し、  
今年度からスタートした文部科学省による国家プロジェクトです。

## 学問分野毎に 世界をリードする研究教育拠点づくりを目指す。

「21世紀COEプログラム」は、文部科学省が世界最高水準の研究活動を行い、特定の研究分野における中核的な研究教育拠点として発展する可能性を持つ全国の大学における研究プロジェクトを選定。選ばれたプロジェクトに5年間重点的支援を行い、国際競争力のある個性あふれる大学づくりを推進する国家プロジェクトで、2001年6月に文部科学省が打ち出した「大学の構造改革」の一環として実施されたものです。

合計10の研究分野が設定されており、今年度は5分野を対象に公募。全国163大学から464件の応募があり、各分野20件を目安に選定されました。審査は、専門家や有識者等によって構成された21世紀COEプログラム委員会(委員長:江崎玲於奈氏)が行い、研究内容の独創性やその発展性はもちろん、拠点を形成するための学長を中心としたマネジメント体制なども評価対象となっています。

COE(Center Of Excellence)とは、“卓越した拠点”“世界的研究教育拠点”という意味で、今回選ばれた研究教育拠点は、わが国においてトップクラスであるばかりでなく、世界の研究者が注目するものばかりです。



理工学部附置先端技術研究開発センター  
(現:世田谷キャンパス)は、  
2003年4月、相模原キャンパスに移転します。

国公立別の採択数



21世紀COEプログラム申請状況

	申請大学数	生命科学	化学・材料科学	情報・電気・電子	人文科学	学際・複合・新領域	申請件数合計
国立大学	76	66(43)	54(44)	49(41)	39(23)	75(46)	283
公立大学	21	11(11)	5(5)	6(6)	8(7)	8(8)	38
私立大学	66	35(26)	23(22)	23(19)	32(27)	30(24)	143
合計	163	112(80)	82(71)	78(66)	79(57)	113(78)	464

※各分野毎の数値は、「申請件数(大学数)」を表示。 ※申請大学数と、各分野毎(大学数)の合計数が異なるのは、1大学で複数分野への申請があるため。

## 文部科学省の 「21世紀COEプログラム」研究教育拠点として 青山学院大学はさらにグレードアップ。

理工学部附置先端技術研究開発センター等の「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」(拠点リーダー:秋光純教授)が、「21世紀COE(Center Of Excellence)プログラム」研究教育拠点として選定を受けました。

今回、公募された5分野の中で本学が選ばれた「化学、材料科学」の分野では、71校・82件(国公立59、私立23)と非常に多くの申請があり、この中から15校、21件を選定。そのうち私立大学は、青山学院大学、慶應義塾大学、早稲田大学の3校だけでした。一般に私立大学は、研究費や人員配置の面などで、こうした最先端研究の分野で不利と言われています。しかし、今回、15校の中に本学が選ばれたことは、国公立・私

立を問わず、本学の研究レベルの高さが評価されたことにほかなりません。

青山学院大学は、「青山」と「相模原」の2キャンパス制となる2003年度から、教育面での改革はもちろん、こうした高度な研究を支援する体制をますます強化していきます。これからも青山学院大学にご期待ください。

「21世紀COEプログラム」研究教育拠点校選定は、新聞各紙で大きく報道されました。  
(読売新聞10/3付朝刊)



## 日本の私立大学で初めて世界標準のERPソフト『SAP R/3』のホスティングサービスをスタート

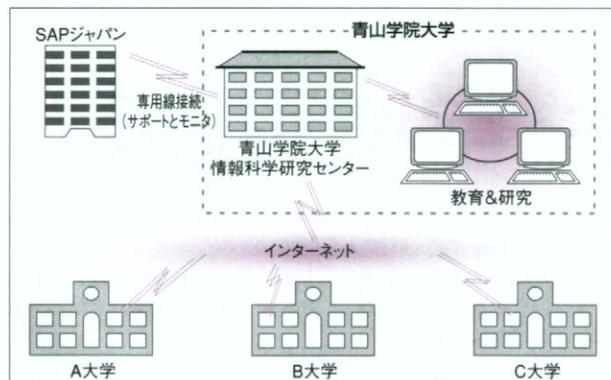
「ERP (Enterprise Resource Planning) とは、日本語で統合基幹業務システムなどと訳されるもので、企業の会計・生産・販売・人事などの基幹業務を、個別的にはなく、連動させながらコンピュータ処理できるパッケージソフトです。そして世界でシェアNO.1を誇るERPソフトがドイツ・SAP社のSAP R/3。わが国でも多くの有名企業が採用しています。



国際マネジメント研究科教授  
堀内 正博

青山学院大学では、2002年度よりSAP R/3を学内外の教育・研究のためにホスティング (配信) するUAH (University Application Hosting) をスタート。本学および配信先の大学の学生は、インターネットに接続されたパソコンから、本学情報科学研究センターにあるERPを操作し、遠隔学習などのサービスを受けられます (図参照)。そこで、そのプロジェクトの中心となった国際マネジメント研究科の堀内正博教授、経営学部の田中正郎教授にSAP R/3を導入した新しい教育・研究についてうかがってみました。

われわれは数年前からSAP R/3を導入した授業をプロジェクトで開発



し、実施してきました。今回、情報科学研究センターをはじめ大学の関係各位のご助力と、SAP社の日本法人であるSAPジャパンのご支援によりホスティングサービスをスタートさせることができました。現在、わが国でSAP R/3のUAHサービスを提供しているのは横浜国立大学と本学のみで、本学からは東京、横浜、名古屋、九州の5～6大学にサービス配信しています。日本のERP教育の先駆けとして、本学の取り組みは、今後大きな意味を持っていくでしょう」(堀内教授)



「SAP R/3を授業に導入するメリットは、実際の企業と同じシステムを使ったきわめて実践的な教育ができるということです。しかも、経営情報をはじめ、会計学、生産管理論、流通論、マーケティングなど、広くマネジメント全般にわたる教育に利用できます。学部生に対しては、企業での実際の業務に即した“バーチャル版インターンシップ”となる授業を提供し、新しいITリテラシー教育を行っていきます。また、社会人を含む大学院生に対してはSAP R/3を利用してビジネスモデルをどのように開発していくかという授業を展開させていきます。UAHの運用にあたっては、ハードウェアなどインフラ面で情報科学研究センターの全面的なサポート



経営学部教授  
田中 正郎

を受けていますので、私たち教員は、教育の中身を充実させることに専念しています。今後、ERPを利用したマネジメント教育が主流になってくるとは思いますが、UAHサービスを使って青山学院大学発ERP教育を、学外にも積極的に発信していくつもりです。われわれの学部だけでなく、他学部も含めたコラボレーション、融合領域の教育研究も展開させていきたいですね」(田中教授)

## 全学院規模でウイルス、ハッカーに「NO!」

本格的なネットワーク社会を迎え、インターネットでつながった多くの情報機器は、私たちの生活にとって欠かすことができない生活基盤となっています。同時に、ハッカーやコンピュータウイルスなどによる被害も急増しています。近年は国際情勢の悪化により海外からの脅威も増大しており、最先端のIT教育を推進する大学が、ハッカーたちのターゲットとして狙われるケースが増えてきました。

青山学院大学は、こうしたコンピュータウイルス、ハッキングによる個人情報漏洩など、ネットワーク社会におけるさまざまな脅威から、学生、教職員を徹底的に防御することが大学としての責任であると考えています。この度、学院全体におよぶ大規模なウイルス・ハッカー対策を展開。情報セキュリティのソフトベンダーである日本ネットワークアソシエイツ社から、約3万1000台分のウイルス対策ソフト「McAfee」の利用ライセンスを取得。教室、研究室、事務セクションなど、各キャンパス内のすべてのサーバーやパソコン (ウィンドウズ、

マッキントッシュ) はもちろん、学生や教員が個人で所有するパソコン・携帯端末に至るまでソフトを導入することを可能としました。

本学では、従来からキャンパス内のサーバーやパソコンには、ウイルス対策を徹底してきましたが、外部から持ち込まれたノートパソコンやファイル、CD-ROMなどから、ウイルスに感染するケースも多く報告されています。そのため、大学のネットワークに接続するすべてのパソコンに何らかの対策を施さなくては、情報セキュリティの抜本的な解決にはならないとの認識に立ち、今回のネットワークセキュリティ管理を実施することにしました。個人所有のパソコンにまで、ウイルス対策を徹底させたのは、青山学院大学が日本で初めてです。

ウイルス対策ソフト「McAfee」は、学内IDを所有していれば情報科学研究センターのホームページ (<http://www.aoyama.ac.jp>) より、最新バージョンがダウンロード (自動更新) できます。

# 文学部への転学部制度を導入

文学部は2003年度から転学部制度を導入することを決定しました。大学はかねてより転学部制度に前向きに取り組む意向を表明しており、それに基づき法学部がすでに2002年度より実施しておりますが、文学部での実施はそれに続くものです。ただし教育学科と第二部教育学科は2003年度の実施は見送り、2004年度よりの実施を予定しています。募集定員は各学科とも若干名、また出願資格は本学他学部の全入学年度入学者、つまりあらゆる学年の在籍生、ということで、事実上は定員、資格ともに、考えられる限りもっとも制限の少ない形で実施することになります。

文学部は今年度(2002年度)より転学科制度を実施しましたが、その主たる趣旨は、入学後に自分が選んだ学科への適性に疑問が生じ、そのために勉学意欲が失われるような場合、あるいは自分が選んだ学科とは異なる学問分野に対してより強い意欲がわいた場合、学生本人の意欲を最大限に尊重して、学科の選択を言わば「やり直し」チャンスを与えようというものです。転学部制度もその根本趣旨は同じです。転学科制度が文学部内部で選択の「やり直し」を認めるものであったのに対して、転学部制度はその枠を全学に広げるものです。もっともこれは文学部への転学部の制度であり、文学部の学生が他学部に移りたいと思っても、可能性があるのは当面は法学部だけですが、いずれは転学部制度が他

の学部にも広がって行くことは大いに期待できるものと思われます。

文学部のこうした制限の少ない実施形態は、転学部制度の趣旨にもっとも適うものと言うことができるでしょう。これは昨年度、文学部内で転学科制度とともに検討を重ねた末、学生の利益を優先させることが妥当であるとの結論に達したからです。そして今回、転学部制度の実施を決定するとともに、転学科制度についても、出願資格に課されていた制約を撤廃し、すべての学年の在籍生に出願資格を認めることにしました。

転学部制度の導入によって、すでに他学部で学び、他の学問分野の知識体系や方法論の洗礼を受けた、モチベーションの高い学生が入ってくるでしょう。これにより、文学部に一種カルチャー・ショック的な活性化効果が生まれれば、と期待しております。(文学部長 石崎晴己 記)

文学部への転学部制度は、出願資格・試験科目等が学科により異なるため下記までお問い合わせください。出願期間は2002年12月17日(火)・18日(水)の2日間で、18日郵送必着とします。試験日および試験会場は2003年2月8日(土)青山キャンパスにて。合格発表は2月20日(木) 問い合わせ先:学務部教務課 03-3409-8047(ダイヤルイン)

## 2002年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。また、青山学院大学大学院給付奨学金は、本学大学院に在籍する学生のうち、学業成績、人物とも極めて優秀と認められる者に対して学資金の給付を行うことにより、将来、社会および文化の発展向上に寄与する人材の育成に資することを目的としています。

2002年度は、青山キャンパス(6月19日(水))において各キャンパス合同で授与式を開催しました。

### 〈給付奨学金・学部〉

教育学科/養田薫 英文文学科/早川美幸 フランス文学科/持田佳子 日本文学科/榎本真弓 史学科/池田彩 心理学科/土居見音 経済学科/栗苓、小田部海門、水谷大輔 法学科/金澤史恵 私法学科/大木さち恵、菅田敦史 経営学科/和田まり子、前島杏子、林聖子 国際政治学科/眞鍋絵李葉、森屋朋子 国際経済学科/河野由佳 物理学科/田中裕佳子 化学科/山崎正稔 電気電子工学科/沖本浩二 第二部教育学科/亀井絵里子、立澤療子 第二部英文文学科/佐藤淳子 第二部経済学科/藤堂大五郎、高尾しのぶ、加藤洋明 第二部経営学科/猪岡久美、黒江純子、山本真唯子

### 〈給付奨学金・大学院〉

心理学専攻/羽下路子 日本文学・日本語専攻/栃尾有紀 経済学専攻/齋藤篤子、島田学 私法専攻/大塚樹里子 公法専攻/杉田一博 経営学専攻/杉野文俊、古田美保 国際政治学専攻/堀雅美 国際経済学専攻/柳井知之 国際マネジメント専攻/笠宏文、小林秀二 化学専攻

／森田悠司 電気電子工学専攻/花澤理宏

### 〈給付奨学金・外国人留学生〉

フランス文学科/徐準教 日本文学科/鞠家林 経済学科/任海淳、徐吟好、劉曉莉 経営学科/李瑞鎮、劉静怡 国際経済学科/郭蕊

### 〈学業奨励賞〉

教育学科/梁川梓、塚越まどか、酒井しのぶ、高津香織、後町ひとみ 英文文学科/成尾英利子、弓倉早貴、松下綾、村尾友美、山崎智絵、谷本佳子、濱崎恵理子、西綾香、山下聖子、中村仁美 フランス文学科/細川由衣、杉田友美、渡辺寛和、吉村明子 日本文学科/栗原理恵、小林真由美、久下明日香、有馬みち 史学科/津吉真理、原浩史、岩野優紀子、吉田友香 心理学科/安藤操 経済学科/伊藤麻里絵、小松涼子、盛曉毅、岡崎直子、矢口裕子、萬智恵、古賀高広、徐吟好、寄田智子、荒生明裕、山村真由子、妹尾奈津子、小川恭平、石崎真理、南野健 法学科/井上紗希、黒柳美穂、井田将敏、長谷川那美、内山傑史 私法学科/川村杏子、吉田理人、早川聖子、原口香代子、藤谷晶子、庄司こより、鈴木美和、佐久間宏和、永井誠一 公法学科/増田優太 経営学科/澤田真里、梅川裕一、後藤昂軌、須田祐樹、鄭妍、菅絵美、牟田口実穂、吉田晋、森川貴史、和田愛美、廣田文、坂本学之、島田寛之、澤大輔、添田真希 国際政治学科/増淵美穂、若野飛鳥、柳瀬晶子 国際経済学科/浅原千雅子、中川晶子、丸山夏名美 国際経営学科/東矢孝朗、太田一弘 物理学科/山崎久美子、鶴澤政美、山本智恵子 化学科/熊坂綾子、田村政人、石井あゆみ 機械工学科/原謙介 電気電子工学科/天野清貴、尾崎敏、野村雅人 経営工学科/三平裕士 機械創造工学科/高橋恭平、前澤那月 経営システム工学科/菅原利恵、志賀美穂 情報テクノロジー学科/星笠雅子、亀田誉博 第二部教育学科/辻千夏、高田洋平、阿久津麻子 第二部英文文学科/宮本理恵、平山啓子、新井貴明、赤堀真由美、井上美砂 第二部経済学科/住吉由子、吉田悟、三島綾子、舟津麗子、塚本美恵、金丸裕史、水上寛、菊地隆、矢藤志津枝 第二部経営学科/後藤和郎、佐々木亨、長坂喜代子、市川裕美、正木三奈、田中晃子



# 学生食堂と学生ロビーのリニューアル—明るく、きれいを目指して—

青山キャンパス構内環境整備の一部として、「学生食堂と7号館学生ロビーおよびロビー周辺の改修」が完成しました。この改修は、「明るく、きれい」を目指して学生食堂の環境改善と学生ロビー等の休憩場所整備を行いました。「明るく」については、照明関係の改善はもちろんのこと、全体にわたる色調や空間整備などを考慮し、できるだけ広々としたイメージ作りを心がけました。また、「きれい」については、新規配置の什器とともに、既存什器を化粧直しするなどの工夫と、“分煙”のための喫煙スペースを設けるなどライフスペースとしての快適さ・清潔さも考慮しています。学生食堂については、「明るく、きれい」のほか、動線の工夫（エリア分けや総研ビル外の出入口開放などを含む）による混雑緩和やカフェテリアの移設・拡充など、さまざまな改善を行いました。また、利用環境面の改善に合わせ、米飯メニューの組直しやテイクアウトコーナーでの惣菜品



学生食堂



7号館学生ロビー

類およびデザート類の新メニューによる充実、サービス面のグレードアップを図り、皆さんが満足できる“RESTAURANT”を目指していきますので、どうぞご期待ください。

## 青山学院大学後援会報告

7月12日（金）、青山学院大学後援会評議員会がアイビーホール青学会館にて開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にし、教育研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、在学生のご父母等の保証人によって構成されております。

主な事業は、下記の大学後援会予算案および決算報告書に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏並びに地区別に開催される父母懇談会の開催諸経費から、職員の研修・教職員の福利厚生に対する支援等その内容は多岐にわたります。

評議員会（総会）は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告および決算報告、当年度の事業計画および予算案が審議され、あわせて役員を選出が行われます。今回は、新会長に木村恵司氏（三菱地所（株）

### 2001（平成13）年度 大学後援会決算報告書

収入の部 (単位 円)

科目	予算	決算	差異
前期繰越金	21,441,909	21,441,909	0
会費収入	105,600,000	107,625,000	△ 2,025,000
利息収入	30,000	17,421	12,579
合計	127,071,909	129,084,330	△ 2,012,421

支出の部 (単位 円)

科目	予算	決算	差異
<b>学生活動関係</b>			
学友会活動補助	24,500,000	24,493,607	6,393
学友会活動指導補助	13,500,000	13,290,000	210,000
保険料	8,000,000	8,033,770	△ 33,770
大学行事補助	6,000,000	1,939,015	4,060,985
アドバイザー・グループ会費補助	1,100,000	1,040,000	60,000
ゼミナール活動等補助	1,500,000	250,000	1,250,000
構内環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0
奨励金	1,500,000	0	1,500,000
<b>後援会行事関係</b>			
父母懇談会費	38,000,000	30,534,158	7,465,842
印刷費	200,000	110,250	89,750
旅費交通費	100,000	66,666	33,334
会議費	2,000,000	1,484,786	515,214
消耗品費	100,000	0	100,000
通信費	100,000	35,040	64,960
<b>教職員関係他</b>			
職員研修費補助	5,500,000	5,500,000	0
教職員福利厚生費補助	4,000,000	2,999,860	1,000,140
慶弔費	1,200,000	900,000	300,000
雑費	200,000	0	200,000
予備費	1,000,000	0	1,000,000
支出計	118,500,000	100,677,152	17,822,848
次期繰越金	8,571,909	28,407,178	△ 19,835,269
合計	127,071,909	129,084,330	△ 2,012,421

取締役経営企画部長）、新副会長に梅原吉雄氏（日本ユニシス（株）経営企画部長）、田坂信氏（ニフティ（株）取締役営業統括部長）をはじめ、新任・継続あわせて89名の役員が選出されました。

評議員会終了後、青学会館において懇談会が開かれ、出席された役員の方々、本学院長並びに学長ほか大学教職員との交歓のひとつが持たれました。



### 2002（平成14）年度 大学後援会予算案

収入の部 (単位 円)

科目	金額	摘要
前期繰越金	28,407,178	
会費収入	105,870,000	会費収入内訳
利息収入	15,000	第1部 @6,000円×16,050名=96,300,000円
雑収入	700,000	第2部 @3,000円×3,190名=9,570,000円
合計	134,992,178	

支出の部 (単位 円)

科目	金額	摘要
<b>学生活動関係</b>		
学友会活動補助	24,500,000	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	13,500,000	学友会指導者・監督への謝礼（交通費一部負担額）他
保険料	9,000,000	大学傷害保険
奨学金事業補助	10,000,000	奨学金資金への補助
大学行事補助	5,500,000	大学行事補助
アドバイザー・グループ会費補助	1,000,000	アドバイザー・グループ会費補助
ゼミナール活動等補助	1,500,000	ゼミナール活動補助他
構内環境整備補助	10,000,000	構内環境整備補助
奨励金	1,500,000	奨励金
<b>後援会行事関係</b>		
父母懇談会費	25,000,000	首都圏及び地区別父母懇談会開催諸費用
印刷費	150,000	役員名簿・決算報告書印刷費
旅費交通費	100,000	事務連絡交通費
会議費	1,800,000	評議員会・懇親会費用
消耗品費	100,000	事務用消耗品
通信費	100,000	役員会・評議員会通信費
<b>教職員関係他</b>		
職員研修費補助	11,000,000	職員研修費補助
教職員福利厚生費補助	3,500,000	教職員同好会補助他
慶弔費	1,200,000	教職員等の慶弔費用・学友会関係祝金
雑費	200,000	各校友会支部との懇親会補助他
予備費	1,000,000	
支出計	120,650,000	
次期繰越金	14,342,178	
合計	134,992,178	

# 国際政治経済学 研究科1年 伊藤丈人君CWAJ奨学生に選抜される

5月22日(水)、東京アメリカンクラブで開催された国際ボランティア団体・CWAJ (College Women's Association of Japan) 主催の月例昼食会で、本学大学院国際政治経済学研究科国際政治学専攻修士課程1年生の伊藤丈人君が奨学生として紹介されました。

1949年に発足したCWAJは、国内外の学生および教育・文化の分野で働く人々を対象に、学問的に優れ、将来社会に貢献できる人材を選抜、各種奨学金を支給している団体です。1972年より海外に留学する女子留学生のほか、在日外国人大学・大学院女子留学生など、女性を対象にしている奨学金制度を確立し、1978年からは男女を問わず視覚障害学生にも奨学金の授与を行っています。

2002年度CWAJ奨学生は、210名の応募者の中から10名が選抜されました。本学学生がこの奨学金制度選抜されたのは今回が初めてのことです。そこで伊藤君に学問に対する思いを中心にお話を聞いてみました。

——今回、CWAJ奨学生に選ばれた感想を聞かせてください。

伊藤 私は学問を続けていくために、さまざまな奨学金にトライしてきました。今回選ばれたCWAJ奨学生は特に難関だったので本当にうれしいです。

——本学で学ぶに当たって視覚障害者としてのハンディを感じることはありますか。

伊藤 学部時代から、青山学院大学にはテキストの点字化、パソコン貸与やティーチングアシスタント、試験時間の延長など、さまざまな配慮をしていただいています。また、音声読み上げパソコンや点字の電子手帳など、現在は視覚障害者のためのさまざまな機器がありますので、なんとか支障無く学問に取り組んでいます。ただ、研究のためには多くの資料を読まな

くはなりません、点字の性格上、斜め読みや要点読みが難しいことがハンディといえば、ハンディといえるかもしれません。

——なぜ「国際関係論」を専攻しているのですか？

伊藤 学部に入学する以前から、専攻分野は決まっていたんです。私が小学生から中学生にかけての頃、ベルリンの壁崩壊、冷戦終結、湾岸戦争……と世界は激動の時代を迎えていました。おそらくそれらが私の原点だと思います。現在は、京都議定書など、地球環境問題にかかわる国際協定に大きな関心を抱いています。国際紛争などのテーマより、「どのように世界を良くするか」というポジティブなテーマの方が、自分としては研究に対するインセンティブを持ちやすいんです。修士課程修了後は、博士課程に進みたいと思っています。将来の夢？ もちろん研究者になることです。

——研究者をめざすにあたって、今後の課題はありますか？

伊藤 今までは文献資料を中心とした研究でしたが、より幅広い研究方法にトライしていきたい。たとえばさまざまな人々のインタビューや統計データの分析などですね。やはり、国際関係という学問にとつて現実を知ることは、とても大切だと思いますから。研究者になることは決して簡単なことではありませんが、悔いの残らないよう頑張りたいと思っています。



## 文学部史学科学生が 実験考古学の試みとして「埴輪」製作に参加

埴輪を現代人が製作することで、古代人がどのようにして埴輪に見られるさまざまな特徴を生み出していたかを明らかにしよう……2002年6月、そんなユニークな試みがスタートしました。これは実物と模倣埴輪の比較を行う実験考古学の試みで、東京都内9大学の約50名の学生が参加。本学からも山口正憲助手(文学部史学科)が率いる学生4名が参加しました。学生たちは、群馬県・保渡田八幡塚古墳から出土した円筒埴輪を手本として、古墳の近くにある群馬県群馬町「かみつけの里博物館」で製作作業を行いました。そこで、この新しい考古学の試みに参加した学生2名に埴輪製作体験について聞いてみました。

### ●和田伸哉君(文学部史学科4年)

「見るのと、作るのはまったく違う」これが正直な感想です。作り方を試行錯誤する過程で、古代人たちの生活観や、実際に製作にあたった埴輪工人たちのプロとしての姿勢などについて、さまざまな発見がありました。古代考古学を専攻している者として、このようなチャンスを与えられたことに感謝しています。また、同じ歴史を学ぶ他大学の学生たちとの交流も、大変有意義でした。

### ●藤巻善人君(文学部史学科4年)

僕は日本の中世を研究対象とする手塚直樹教授のゼミで学んでいますが、古墳時代の埴輪や土器にも興味があったので、今回の試みに参加。埴輪を製作するのは、手間こそかかりますが意外と簡単で、製作技術が他地域に伝播しやすいのではと思いました。古代人はかなり早いスピードで埴輪を量産していたようですが、当時の人々の製作方法、またどのような目的で何千本もの埴輪(保渡田八幡塚古墳の場合)を製作したのかなど、興味は尽きません。



左・和田伸哉君 右・藤巻善人君

## クリスマス・ツリー一点火祭

イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスまでの4週間を、アドヴェント(待降節)といっています。その喜びの季節に入ることを心に刻むために、幼稚園から大学院まで青山学院全体がひとつになって行われる礼拝が、クリスマス・ツリー一点火祭です。今年度は11月29日(金)の夕刻に各キャンパスで行われます。ご一緒に、クリスマスを祝いましょう。



# Club & Circle Information

問い合わせ先  
学生部学生課  
Tel 03-3409-8111 (内線12163、12164)

## 結果報告(6月~9月)

E.S.S. ●第38回大木杯争奪全日本学生英語弁論大会(6/15) 於:1244教室  
演劇研究会 ●演劇公演(8/28~9/2) 於:中野ウエストエンドスタジオ ●演劇公演「アナタの世界」(9/18・19) 於:池袋アーツスペースサンライズホール ●演劇公演「花鳥風月」(9/23・24・25) 於:青山キャンパス教室  
オラトリオ・ソサエティ合唱団 ●KAY合唱団第105回定期演奏会(6/29) 於:東京芸術劇場

ギター・アンサンブル ●第37回関東学生ギター連盟定期演奏会(6/5)  
広告研究会 ●第40回青山学生キャンパスストア(8/1~31) 於:千葉県富浦町原岡海岸

放送研究部(A.B.S.) ●第47回A.B.Sサウンド見本市(6/29) 於:1235教室  
ロイヤルサウンズジャズオーケストラ ●京王沿線ビッグバンドコンサート(6/19) 於:京王百貨店屋上ビアガーデン ●第33回山野ビッグバンドジャズコンサート(8/18) 於:新宿文化センター

二部写真部 ●ロビー展(6/24~30) 於:7号館ロビー  
吹奏楽バトントワリング部 ●東京都大学吹奏楽コンクール(8/17) 於:江戸川総合文化センター

白馬ヒュッテ運営委員会 ●白馬ヒュッテ夏期開設(8/3~9/14) 於:長野県柵池高原  
空手道部 ●関東学生空手道選手権大会(6/2) 於:慶應義塾大学/女子形の部優勝:林 里奈(日4)/男子形の部準優勝:長谷川 祐介(済3)/女子組手の部3位:伊藤 愛華(営4) ●第45回全国空手道選手権大会(6/29・30) 於:日本武道館/女子個人形の部準優勝:伊藤 愛華(営4)/女子個人形の部ベスト8:長嶋 優(法1)/女子団体形の部準優勝:岡島 洋恵(営1)、渡辺 さやか(教1)、長嶋 優(法1) ●全日本学生選手権大会(7/7) 於:大阪府立体育館/女子個人形の部優勝:諸岡 奈央(済3) ●世界学生選手権(8月)/女子個人形の部日本代表:諸岡 奈央(済3)

水泳部 ●日本選手権水泳競技大会競泳大会(6/11~16) 於:東京辰巳国際水泳場/女子50メートル平泳ぎ決勝7位:岡田麻伊(教2)/女子1500メートル自由形決勝8位:山口綾乃(法1)

卓球部(男子) ●平成14年度関東学生卓球選手権(7/4~6) 於:駒沢体育館/シングルスベスト8:今林 浩喜(済3)

卓球部(女子) ●平成14年度関東学生卓球選手権(7/4~6) 於:駒沢体育館/ダブルスベスト8:加登 幸子(国3)、小森 禎子(教3)

馬術部 ●関東学生馬術三大大会(6/27~30) 於:馬事公苑/障害飛越競技・個人優勝:成瀬亜紀子(法4)/総合馬術競技・個人準優勝:田中英樹(国4)

レスリング部 ●世界学生レスリング選手権大会(6/21~25) 於:カナダ・エドモントン/フリースタイル66キロ級日本代表銅メダル:長嶋 正彦(済3)

## 活動予定(11月~1月)

オーケストラ ●第81回定期演奏会(11月10日)

オラトリオ・ソサエティ合唱団 ●KAY合唱団定期演奏会(12月)

ギター・アンサンブル ●定期演奏会(12月)

グリーンハーモニー合唱団 ●第48回定期演奏会(12月)

写真研究部 ●写真展(12月)

箏・尺八研究会 ●第40回定期演奏会(11月)

チェックメイト ●全国オール学生個人戦(1月)

長唄同好会 ●第56回学生長唄連盟演奏会(12月)

舞踏研究会 ●天野杯(11月) ●全日本戦(12月)

放送研究部(A.B.S.) ●後期サウンド見本市(12月)

落語研究会 ●青山名人会(12月)

リズムマンドリーノ ●定期演奏会(12月)

ロイヤルサウンズジャズオーケストラ ●定期演奏会(12月)

第二部合唱部コーラル・フロッシュ ●第36回定期演奏会兼創部50周年記念演奏会(12/8)

応援団 ●全日本学生応援団連盟記念祭(11/17)

合気道部 ●全国学生合気道選手権大会(12月)

アイススケート部(ホッケー) ●平成14年度関東大学アイスホッケーリーグ戦(10~12月)

アイススケート部(フィギュア) ●オール関東フィギュアスケート選手権大会(11月) ●日本学生氷上競技選手権大会(1月)

アメリカンフットボール部 ●秋期関東アメリカンフットボールリーグ戦(9~11月)

居合道部 ●全国学生居合道大会(11月)

空手道部 ●関東学生秋季リーグ戦(11月) ●全日本大学空手道選手権大会(11月)

剣道部 ●全日本学生剣道優勝大会(10月) ●全日本女子学生剣道優勝大会(11月)

拳法部 ●第12回東日本大学選手権大会(11月) ●第46回全日本学生拳法選手権大会(11月)

航空部 ●第17回関東学生グライダー大会(12/15~23)

硬式庭球部 ●全日本学生室内テニス選手権大会(12月)

サッカー部 ●全日本大学サッカートーナメント(11月)

柔道部 ●全日本学生体重別団体優勝大会(11月)

スキー部 ●全日本学生スキー選手権大会(1月)

ソフトテニス部 ●東都大学ソフトテニス選手権大会(11月) ●関東学生新進大会(11月) ●全日本学生選抜インドア大会(11月) ●東都大学ソフトテニスシングルス大会(11月)

卓球部 ●全日本卓球選手権大会(団体の部)(11月) ●全日本卓球選手権大会(12月)

チアリーディング部 ●全日本チアリーディング学生選手権大会(12/14・15)

バスケットボール部 ●関東大学バスケットボールリーグ戦(10~11月) ●全日本大学選手権(12月)

バドミントン部 ●全日本総合バドミントン選手権大会(11月)

馬術部 ●全日本学生馬術大会(11月) ●関東学生馬術選手権(12月) ●全日本学生馬術選手権(12月)

パワーリフティング部 ●関東学生パワーリフティング大会(12月)

洋弓部 ●インドア選手権大会(1月)

ラグビー部 ●関東大学対抗戦(9~12月)

レスリング部 ●全日本大学グレコローマン選手権(11月) ●全日本選手権(12月)

## 2002年度「青山祭」を盛り上げよう!



2002年度「青山祭」実行委員長  
吉沢 伶 君(経営学部経営学科3年)

2002年度青山祭は、11月1日の前夜祭にはじまり、2~4日に本祭が開催されます。今年度のテーマは“新感覚~日常・非日常”。「学生一人ひとりが青山祭に参加することで得たエネルギーや人とのつながりを、それぞれの日常でも生かして充実した学生生活を過ごしてほしい」というのがわれわれ青山祭実行委員会の願い。そのためにも誰もが

参加しやすいイベントとなるよう、企画・運営面で工夫しています。

前夜祭のコンサートには、大学祭は20年ぶりという「CHAGE&ASKA」が登場!もちろん恒例のミュージックフェスティバルも青学が誇る強力なバンド、アーティストが目白押しです。

なお、今年度も開催期間中に出る大量のゴミのリサイクル運動を徹底していきますので、どうかご協力をお願いします。

青山祭ホームページ(<http://www.cc.aoyama.ac.jp/user/g-1020/>)



青山祭実行委員メンバー

# 2002年度オープンキャンパス——過去最高の12,800人来場!——

2002年度オープンキャンパスは、7月20日(土・祝)および9月14日(土)に開催されました。7月のオープンキャンパスには、青山キャンパス:8,215名(昨年度6,012名)、世田谷キャンパス:681名(昨年度631名)が、9月には、3,977名(昨年度3,420名)が来場しました。総来場者数は、12,873名(昨年度10,063名)となり、本学の人気の高さがうかがえました。本年度は、「保護者を対象とした大学ガイダンス」や



心理学実験デモンストレーション

「一般入学試験過去問題集(2002年度/CD-ROM版)配布」など、新しい試みを追加した他、「吹奏楽ノットワリング部」「応援団」「チアリーディング部

「マスコット委員会」「ハンドベルクワイア」「アナウンサー研究会」などの学生団体や、各学部学科の紹介や模擬授業などで協力していただいた学生、受付や案内誘導などをボランティアで手伝っていただ



受付を待つ来場者

た学生など、たくさんの在学生の協力を得て実施いたしました。

なお、7月6日(土)には、青山キャンパスにおいて、社会人を対象とするオープンキャンパスも開催、391名(昨年度351名)の方が来場しました。こちらも多くの方々に本学を知っていただいたよりよい機会であったと思います。

## 2002年度就職関係行事

行事	対象者	日程	時間	場所	備考
テーマ別セミナー	学部3年生	10/21(月)	16:20~17:50	420教室	商社業界の仕事内容、採用動向などを解説
		10/23(水)	14:45~16:15	420教室	金融業界の仕事内容、採用動向などを解説
		10/23(水)	16:20~17:50	420教室	Uターン就職についてのセミナー
女子学生就職セミナー	学部3年生	10/26(土)	11:00~12:30	420教室	(職業観・企業研究)各業界で活躍するOGの現場からのメッセージ
公務員内定者との懇談会	学部3年生	10/29(火)	16:20~17:50	1225教室	公務員に内定した4年生との懇談会
エントリーシート・自己PR講座	学部3年生	10/30(水)	14:00~17:30	910教室	(自己分析・試験対策)エントリーシートの書き方を講義し、実際に書いたシートを添削(1,300円)
		11/9(土)	10:30~14:30	420教室	実際に書いたシートを添削(1,300円)
適性検査ガイダンス	学部3年生	10/15(火)~			適性検査を受けた学生に結果をガイダンスします
模擬試験	学部3年生	11/20(水)	13:10~14:40	930教室	一般常識テスト(1,000円)
		12/14(土)	10:30~12:00	930教室	
SPI試験	学部3年生	11/27(水)	14:30~18:00	910教室	採用試験で多く取り入れられているSPI試験の講義と試験(テキスト代込み1,500円)
		12/21(土)	10:30~14:30		
学内企業セミナー	学部3年生	11/9(土)	午前、午後		〈業界・企業研究〉各業界の採用担当者を招き、学内で実施する企業説明会 ※詳細は就職部掲示板でお知らせします
		11/13(水)・20(水)・27(水)	午後		
		11/30(土)	午前、午後		
		12/4(水)・11(水)・18(水)	午後		
		12/7(土)	午前		
		12/14(土)	午前、午後		
		12/16・17(月・火)	16:20~17:50		
		12/19・20(木・金)	16:20~17:50		
12/21(土)	午前、午後				
公務員採用説明会		12/2(月)~6(金)			詳細は掲示板参照のこと
公務員ガイダンス	1・2年生	12/4(水)	16:20~17:50	14404教室	公務員の仕事、採用試験についての説明会
4年生と進路を語る懇談会	1・2年生	11/13(水)	13:10~14:40	K101	卒業後の進路が決定した4年生との懇談会
公務員ガイダンス	1・2年生	11/13(水)	15:00~16:30	K101	公務員の仕事、採用試験についての説明会
		12/13(金)		D101	
進路・就職相談会	1・2年生	12/9(月)・10(火)・12(木)・13(金)	10:00~17:00	A館3F会議室	進路・就職に関する個別相談会
公務員試験ガイダンス(第2回)	全学年	10/23(水)	14:40~16:10	4307教室	「資料」の配付有り
東京警視庁説明会	全学年	10/30(水)	14:40~15:40	4307教室	「資料」の配付有り
防衛庁説明会	全学年	10/30(水)	15:45~16:45	4307教室	「資料」の配付有り
SPI模擬テスト(第1回)	全学年	11/6(水)	14:40~16:10	4307教室	(有料)申し込みは理工学部就職課へ
就職適性検査結果説明会	学部3年・院1年生	11/13(水)	14:40~16:10	4307教室	10/16実施の適性検査の説明会
一般常識対策テスト	全学年	11/20(水)	14:40~16:10	4307教室	(有料)申し込みは理工学部就職課へ
就職講演会(第2回)	学部3年・院1年生	11/27(水)	14:40~16:00	理工礼拝堂	「志望企業の選び方」
			16:15~16:45		「WORK BOOK for Career Design」の配付
エントリーシート対策講座	学部3年・院1年生	12/4(水)	14:40~16:10	理工礼拝堂	「資料」の配付有り
面接対策講座(第1回)	学部3年・院1年生	12/11(水)	14:40~16:10	4307教室	模擬面接を実施
就職活動報告会	全学年	12/18(水)	15:00~16:00	4号館3階	就職活動の報告会を学科別を実施
就職ガイダンス(第2回)	学部3年・院1年生	12/18(水)	16:15~17:00	理工礼拝堂	「今後の就職活動の進め方について」「就職の手引」の配付
SPI模擬テスト(第2回)	全学年	1/15(水)	14:40~16:10	4307教室	(有料)申し込みは理工学部就職課へ
面接対策講座(第2回)	学部3年・院1年生	1/22(水)	14:40~16:40	4307教室	模擬面接を実施

※追加、変更等もありますので、必ず掲示板にて確認してください。  
※ホームページ(<http://www.aoyama.ac.jp>)の「就職情報」に就職関連情報を掲載します。

# 犯罪・非行の原因と犯罪者・非行少年の処遇について考える

石井 光  
法学部教授



1946年生まれ。東京大学大学院修了後、青山学院大学に就任。専攻は犯罪学、刑事政策、少年法。2000年より学生相談センター所長。現在、国際内観学会実行委員、日本内観学会副会長。著書に「1週間で自己変革」、「内観法」の驚異（講談社）、共著に「内観法入門」（誠信書房）、「法学」（有斐閣ブックス）、「新刑事政策入門」（青林書院）等がある。

犯罪と非行について考える場合、まず「犯罪」「非行」とは何かが問題になります。私たちは日常、あまりその意味を考えずにこれらの言葉を使っているようです。

「非行」と似た言葉に「逸脱」という言葉がありますが、「逸脱」とは何かに関しては、アメリカ犯罪社会学に次のような定義があります。「逸脱とは逸脱と名づける者が逸脱と名づけたものである」というものです。これ以外の定義を見つけることはむずかしいのではないのでしょうか。

「非行」についても同じことが言えるでしょう。中学生が登校拒否をするとまわりが問題にしますが、大学生が授業をサボっても、あまり問題にはされません。このように、何が問題行動であるかということは、まわりがそれを決めていくわけです。

「犯罪」というのは、国家が、その行為を犯罪と決めて刑法をはじめとする刑罰法令に規定したものです。ですから日本で殺人が犯罪なのは、刑法199条に「人を殺した者は3年以上の懲役〜」と書いてあるからです。したがって日本から殺人という犯罪をなくそうとすれば、刑法199条を削除することが一番確実な方法になります。もちろんそれで「殺人」がなくなるわけではありませんが、「殺人という犯罪」はなくなるのです。

日本には嫉妬の伝説があります。韓国にはこの制度は実際にあったようです。高齢になって労働人口でなくなった親をお山にお連れして置いてくるのは長男の役目であって、これをやらないと村八分にされました。今なら保護責任者遺棄致死罪か殺人罪になりますが、当時はこれは村の掟ですから、犯罪ではないどころか、これをやらないと制裁が待っていたのです。ですから、人を殺すことは犯罪に決まっているというのは我々の先入観にすぎません。日本では同性愛が犯罪であったことはありませんが、カトリックの国では、最近まで重い犯罪でした。オランダはマリファナをはじめ、多くの行為を犯

罪のリストからはずした結果、刑務所人口が最も少ない国のひとつになっています。ですから、何が犯罪であるかは、国によって、また時代によって違うのです。犯罪について考えるときはこのことを忘れてはならないでしょう。

少年が万引きをすると、まわりが「不良」のレッテルを貼ります。レッテルを貼られるとその人は、本当にそのレッテルにふさわしくなっていく。これを二次的逸脱と呼びます。これはネガティブなレッテルでなくても同じです。私も「先生」と呼ばれつつけることによって、少しずつ先生らしくなっていました。このように、まわりがレッテルを貼ることによって「非行少年」を作っていくという面があるのです。

ところで、自分は犯罪とは無縁だと考えていては犯罪者の気持ちはわかりません。自分の中にある犯罪性に気づくことは、犯罪者理解の第一歩と言ってよいでしょう。私のおこなった東京都における加害者調査では、回答者の約3分の1がキセル乗車をしたことがあると答えています。

一方、被害者の役割も忘れることはできません。同時におこなった被害者調査では、統計的に痴漢の被害者は女性が多く、若い方が被害者になりやすいという結果が出ました。この他に、女性的傾向が強く、寛容性が高いほど痴漢の被害に遭いやすいという結果も出ています。もちろんこれらの特性を持っていることは「落ち度」とは言えません。しかしそれらの人が痴漢に会いやすい「要因」を持っていることは確かです。

人間は愛情を受けていないと感じると、攻撃性が生まれます。愛の欠乏感からくる攻撃性が外に向かうと非行、犯罪、内に向かうと自殺、鬱という結果をもたらすのです。

したがって、まわりができること

のひとつは愛を与えることです。学校の先生、施設の職員の人々が愛を与えることによって、荒れて傷ついた心が癒されていくのです。

しかしもっと大事なものは、本人が愛を感じる心を持つことです。自分が得ていることに気づかずに、得てないものばかりを求めたり、してもらったことに気づかずに、してもらってないことばかり考えていると不満がたまっていくのです。

たとえばお母さんに食事をつくってもらったとすれば、雨の日も風の日も買い物に行って、重い荷物を家まで運び、野菜を洗って切って、焼いたり煮たり揚げたりして料理を作り、それをお皿に乗せて、そのお皿をお盆に乗せてテーブルまで運ぶ、一方でお湯を沸かしてお茶を入れ、御飯を炊いてお茶碗によそってそれを運ぶ、そして箸を並べて、「はい食べなさい」、これがしてもらったことです。食事の支度を一日3回してもらえれば一年間で千回以上、10年間で一万回以上になります。ところが私たちは、うまいとかまずいとか言って、自分の判断ばかりをしているので、していただいたという事実が見えてこないのです。

ですから、していただいたことに気づく力をつけるように導いていくことが大切です。していただいたことに気づくことによって愛を感じる力をつけるように働きかけていく。そこに非行少年や犯罪者の処遇の基礎があるとよいでしょう。



## AGU受験相談会のお知らせ

青山祭期間中、広報入試センターでは大学受験に関する個別相談、大学紹介ビデオ上映などを行います。

日時:11月2日(土)・3日(日・祝)  
13:00~16:30

場所:青山キャンパス  
(一般入学試験要項[願書]の無料配布はしていません。)

## 相模原新キャンパス説明会

相模原キャンパスに関する説明会を受験生とその保護者を対象に行います。高校1・2年生のご来場もお待ちしております。

日時:2002年11月10日(日)  
10:00~16:00  
(受付は9:45~、予約不要、入退場自由)

場所:青山キャンパス



相模原キャンパス建設風景(2002年10月撮影)

## News Index 2002.06~07 WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2002年6月下旬~7月下旬までの主なタイトルを掲載しています。

### 02年6月

- 理工学部物理学科秋光研究室の研究グループが第6回超伝導科学技術賞を受賞
- 経営学部・総合研究所WTOプロジェクト合同講演会
- 校友会ホームページを開設
- 文学部教育学科同窓会主催講演会「支え合う社会づくりを目指して」開催
- 「青山学報」200号記念号発刊

### 02年7月

- 第9回青山学院大学同窓祭のご案内
- 第18回オール青山ハンドベルコンサートのお知らせ
- 青山学院大学公開講座「文学と都市・パリに残る文学の足跡」のお知らせ
- 理工学部電気電子学科井出英人教授他3人、日本生理学会入澤記念優秀論文賞受賞
- 理工学部化学科重里有三教授、旭硝子研究所との共同研究で光触媒酸化チタンの高速薄膜製造に成功
- 2002 Global Knowledge Network Seminar開催
- 経営学部鈴木豊教授が第30回日本公認会計士協会学術賞を受賞
- 国際政治経済学部創設20周年記念事業講演会開催のお知らせ
- 青山キャンパスからNHKニュース「おはよう日本」放映
- 2002年度社会人のためのオープンキャンパス開催
- 課外教育プログラム「水上ボランティアワークキャンプ」の参加者募集
- 2002年度専門大学院国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻修士課程評議委員会開催
- 清里サマー・カレッジのお知らせ

## シリーズ大学探訪 メモリアル

AGUニュース Vol.2~13にわたって連載してきました「シリーズ大学探訪」。これまで紹介した以下の銅像・石碑は、すべて青山・厚木キャンパスに設置されているものです。なお、次号より新シリーズ「歴代院長とその時代背景」を連載します。どうぞご期待ください。

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| ① ジョン・ウェスレー      | ⑦ 本多庸一       |
| ② ドーラ・E・スクーンメーカー | ⑧ 勝田銀次郎      |
| ③ ジュリアス・ソーバー     | ⑨ アーサー・D・ベリー |
| ④ ロバート・S・マクレイ    | ⑩ 愛の像        |
| ⑤ ジョン・D・ガウチャー    | ⑪ 大木金次郎      |
| ⑥ フィランダー・スミス     | ⑫ 使徒ヨハネ      |



## AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人宛に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュー

スを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。更に「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。

なお、「AGUニュース」を確実に保証人宛にお届けするため、住所が変更になった場合は、次の窓口で住所変更手続きをお取ください。

青山キャンパス→学生部厚生課  
世田谷、厚木キャンパス→各キャンパス学生課

AGUニュースのバックナンバーはこちらでご覧ください。

AGU News on Web  
<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>  
広報入試センター広報課●2002年10月25日発行●